



餃子づくりで、自立支援体験

発行責任者
荒木博子
阿蘇市内
牧 ねむの
木のした

悪天候で、早く帰宅する利用者がいたことをきっかけに、食堂で餃子作りが行われた。普段は食事の時間以外に全員が集まる機会が少ないことから、交流と自立支援を目的に企画されたもの。
タネは職員が用意し、定番とシソ入りの2種類を準備。参加者は好みの具材を選び、「入れすぎたかな」「どうしたらきれいに包めるかな」と声を掛け合いながら思い思いに作業を楽しんだ。「家族と作ったことがある」といった思い出話も飛び交い、和やかな雰囲気にも包まれた。自分で包んだ餃子を食べる体験は、食への関心を高める食育の一環としても期待されている。(も)

【編集後記】外の天気は悪くても、ねむの木のしたの食堂は、「晴れ」だったんだなあ。(良)



ホームページ



Instagram

